

各関係機関団体の長 } 殿
各病虫害防除員

福岡県農林業総合試験場長
(福岡県病虫害防除所)

平成30年度病虫害発生予報第10号(1月)について

このことについて、病虫害発生予報第10号を発表したので送付します。

予報第10号

ご存知ですか?このルール
~植物等の移動規制~

沖縄県、奄美群島、トカラ列島、小笠原諸島にはサツマイモなどに被害を与える害虫が、また、沖縄県、徳之島、沖永良部島、与論島にはカンキツ類などに被害を与える病気が発生しています。これらの病虫害を未発生地域にまん延させないために、寄主植物などの移動が規制されています。規制の対象となっている植物の種類や制度の詳細については、以下のホームページをご参照ください。

- ・植物等の移動規制について〔植物防疫所ホームページ〕
<http://www.maff.go.jp/pps/j/introduction/domestic/didoukisei/index.html>
- ・病虫害のまん延防止にご協力ください(リーフレット)
http://www.pref.fukuoka.lg.jp/uploaded/life/324035_53460152_misc.pdf



アリモドキゾウムシ



カンキツグリーンング病感染樹の葉及び果実(左)
媒介虫のミカンキジラミ(右)

出展: 植物検疫ギャラリー(植物防疫所) <http://www.maff.go.jp/pps/j/introduction/gallery/syokubutu.html>

<予想される向こう1か月の天候(平成30年12月15日~平成31年1月14日)>
暖かい空気に覆われやすく、向こう1か月の気温は高いでしょう。
気圧の谷や湿った空気の影響で、向こう1か月の降水量は平年並か多いでしょう。

向こう1か月の気温・降水量・日照時間(数値は予想される出現確率)

	平均気温	降水量	日照時間
九州北部地方	低20 並30 高50% 高い 見込み	少20 並40 多40% 平年並か多い 見込み	少40 並30 多30% ほぼ平年並 の見込み

(福岡管区气象台 平成30年12月13日発表抜粋)

1月における主な病害虫の発生動向は、次のように予想されます。

作物名	病害虫名	現況 (発生量)	1月の発生予報 (発生量)	
		平年比	平年比	前年比
冬春イチゴ	うどんこ病 ハダニ類	少	やや少	やや多
		やや少	並	並
冬春ナス	すすかび病	少	少	並
冬キャベツ	黒腐病 菌核病	少	並	やや多
		多	多	多
冬レタス	菌核病	やや少	やや多	多

注1) 予報の発生量は平年（福岡県の過去10年間）及び参考として前年との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。

注2) 予報の根拠には、巡回調査、防除員の調査、予察灯・トラップでの誘殺状況調査等に基づく発生状況、気象予報からみた病害虫の発生条件を必要に応じて記載しています。
それぞれの条件は、少発生（－）、やや少発生（－～±）、並発生（±）、やや多発生（±～＋）、多発生（＋）として示し、＋－を総合的に判断して発生量を予想しています。

【野菜：冬春イチゴ】

1 うどんこ病

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少、前年よりやや多

(2) 予報の根拠

ア 12月3半旬調査の結果、発生量は平年より少なかった（－）。

発病株率 0%（平年 0.42%、前年 0%）

イ 向こう1か月の気象予報では、やや多発生の条件となっている（±～＋）。

(3) 防除上の注意

ア 適切にハウスの換気を行い、湿度の低下を図る。

イ 罹病果や罹病葉の早期発見に努め、見つけ次第速やかに取り除く。

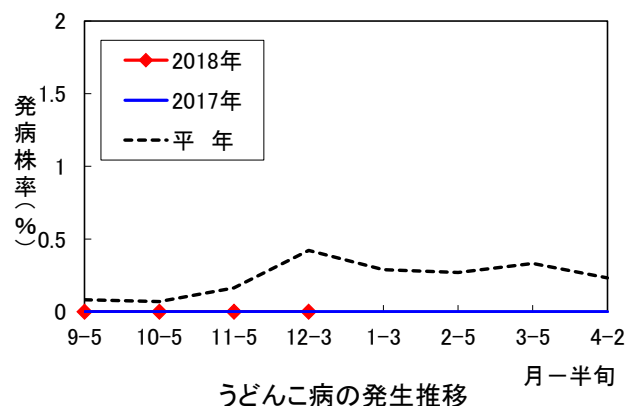
ウ 収穫後の果梗は、放置すると感染源となりやすいので、早めに取り除く。

エ 病勢が進展すると防除が困難となるため、初期防除を徹底する。

オ 古葉かぎ後、薬液が葉裏にもかかるように丁寧に散布する。

カ 同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

キ 農薬の使用及び散布等にあたっては、p5の内容を確認の上、適切に実施する（以下の病害虫についても同様）。



2 ハダニ類

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

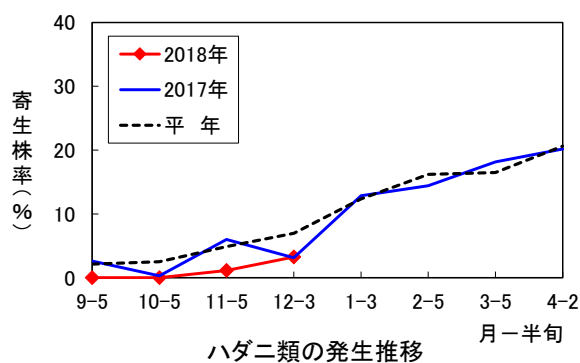
ア 12月3半旬調査の結果、発生量は平年よりやや少なかった（－～±）。

寄生株率 3.2%（平年 7.0%、前年 3.1%）

イ 向こう1か月の気象予報では、多発生の条件となっている（＋）。

(3) 防除上注意すべき事項

ア ハウス内外の除草を徹底し、本虫の増殖源を絶つ。除草した雑草や摘葉した葉はハウス内に放置せず、ビニル袋等に入れて密封し処分する。

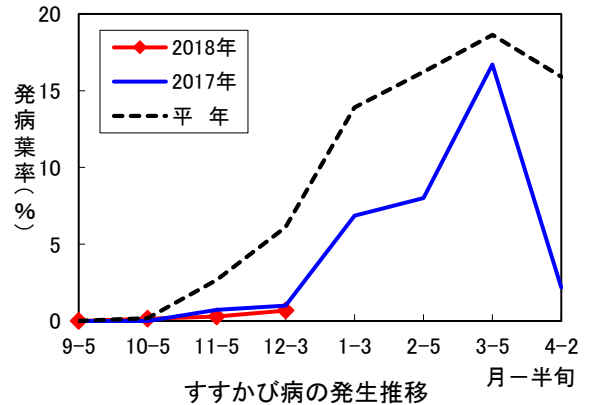


- イ 多発後は防除が困難になるので、発生状況に注意し、初期防除を徹底する。なお、防除は摘葉後に行くと効果的である。
- ウ 薬剤抵抗性がつきやすいので、同一系統薬剤の連用は避け、気門封鎖剤も含めて異なる系統の薬剤をローテーション散布する。
- エ 天敵を利用する場合は、薬剤の選定に留意する。
- オ 親株についても防除を徹底する。

【野菜：冬春ナス】

1 すすかび病

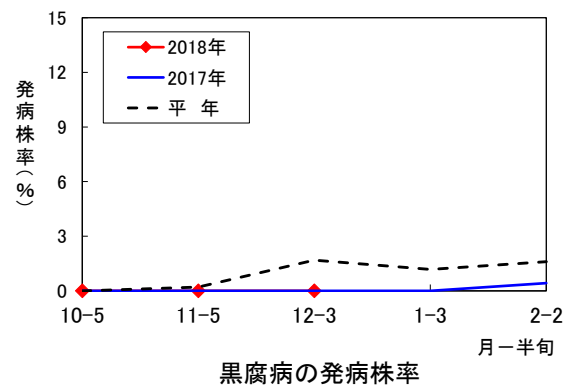
- (1) 予報の内容
発生量：平年より少、前年並
- (2) 予報の根拠
ア 12月3半旬調査の結果、発生量は平年より少なかった（－）。
発病葉率 0.67%（平年 6.1%、前年 1.0%）
イ 向こう1か月の気象予報では、多発生の条件となっている（＋）。
- (3) 防除上注意すべき事項
ア 樹勢が低下すると発病が助長されるため、適切な肥培管理に努める。
イ 適切にハウスの換気を行い、湿度の低下を図る。
ウ 発病葉はできるだけ除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。
エ 病勢が進展すると防除が困難であるため、初期防除を徹底する。
オ 同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。
カ すすかび病の防除薬剤の中には天敵に悪影響を及ぼすものがあるため、天敵を利用する場合は、薬剤の選定に留意する。



【野菜：冬キャベツ】

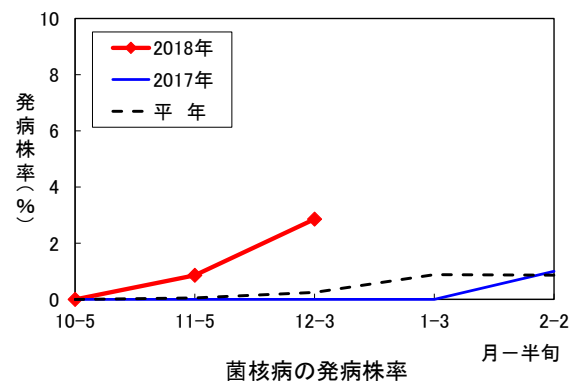
1 黒腐病

- (1) 予報の内容
発生量：平年並、前年よりやや多
- (2) 予報の根拠
ア 12月3半旬調査の結果、発生量は平年より少なかった（－）。
発病株率 0%（平年 1.7%、前年 0%）
イ 向こう1か月の気象予報では、多発生の条件となっている（＋）。
- (3) 防除上注意すべき事項
ア 予防散布に努める。
イ 発病株を見つけたら、早めに除去、処分する。
ウ 多発ほ場では、アブラナ科以外の作物を輪作する。



2 菌核病

- (1) 予報の内容
発生量：平年、前年より多
- (2) 予報の根拠
ア 12月3半旬調査の結果、発生量は平年より多かった（＋）。
発病株率 2.9%（平年 0.25%、前年 0%）
イ 向こう1か月の気象予報では、多発生の条件となっている（＋）。
- (3) 防除上注意すべき事項
ア 発病株は早めに抜き取り処分する。

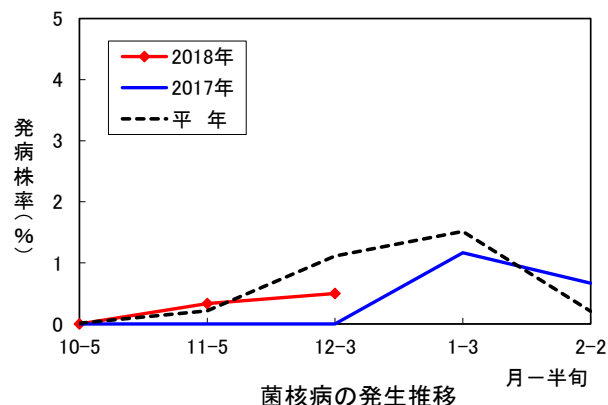


- イ 防除適期は結球開始期である。株元に十分かかるように、丁寧に散布する。
- ウ 収穫後に反転耕を行い、5 cm を超える深さに菌核を埋没させる。
- エ 詳細は「30 農林試 5382 号技術情報第 6 号」参照。

【野菜：冬レタス】

1 菌核病

- (1) 予報の内容
 - 発生量：平年よりやや多、前年より多
- (2) 予報の根拠
 - ア 12 月 3 半旬調査の結果、発生量は平年よりやや少なかった（－～±）。
発病株率 0.5%（平年 1.1%、前年 0%）
 - イ 向こう 1 か月の気象予報では、多発生の条件となっている（+）。
- (3) 防除上注意すべき事項
 - ア 予防的に地際や葉の基部を主体に薬剤散布を行う。
 - イ 発病株は早めに抜き取り処分する。
 - ウ 収穫後に反転耕を行い、5 cm を超える深さに菌核を埋没させる。



【野菜：その他の病害虫】

作物名 病害虫名	現況 (発生量)	1月の発生予報 (発生量)		防除上注意すべき事項等
	平年比	平年比	前年比	
冬春イチゴ 灰色かび病	やや少	やや多	やや多	<ul style="list-style-type: none"> ・発病果は見つけ次第除去する。 ・収穫後の果梗は放置すると感染源となりやすいので、早めに取り除く。 ・古葉かぎを随時行い、株間の通風を図って湿度を低下させる。
冬春ナス 灰色かび病	やや多	多	多	<ul style="list-style-type: none"> ・適切にハウスの換気を行い、湿度の低下を図る。 ・発病葉、発病果は見つけ次第除去する。
ミナミキイロアザミウマ	少	やや少	やや多	<ul style="list-style-type: none"> ・ほ場内外の除草を徹底し、本虫の増殖源を絶つ。 ・ハウス栽培では、施設間の移動・分散を防ぐため、0.4mm目以下の防虫ネットを天窓や出入口を含めて隙間なく張る。 ・幼虫が寄生している下位葉は、できるだけ除去する。 ・葉裏への寄生が多いので、散布ムラがないように散布する。また、多発した場合は、約1週間後にもう一度薬剤散布を行う。 ・同一系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布をする。 ・天敵を利用する場合は薬剤の選定に留意する。

作物名 病害虫名	現況 (発生量)	1月の発生予報 (発生量)		防除上注意すべき事項等
	平年比	平年比	前年比	
冬キャベツ コナガ	並	やや多	並	・若齢幼虫期に防除する。 ・一部のジアミド系薬剤で感受性が低下している個体群が確認されているため、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。
冬レタス 灰色かび	少	やや少	やや多	・発病株は抜き取り処分し、直ちに薬剤散布する。
腐敗病	並	並	少	・収穫が遅れると突発することがあるので、適期収穫に努める。

農薬の安全・適正使用、飛散防止対策の徹底を！

福岡県では、農薬の安全かつ適正な使用及び保管管理、使用現場における周辺への配慮を周知徹底するとともに、農薬による事故防止を目的として、安全使用講習会の開催や啓発チラシの配布等を関係機関、団体と一体となって取り組んでいます。

使用者の安全はもちろん、人畜・隣接作物・河川等への配慮について、ご指導をお願いします。

1 農薬適正使用の徹底

○適用作物、使用量や濃度、使用時期、総使用回数などが記載されたラベルをよく確認し、使用基準を遵守する。

※農薬の種類によっては、登録の内容がメーカーによって異なるので、ラベルをよく確認する。

(例：スミチオン水和剤40は、メーカーによって適用作物名や適用病害虫名が異なる)

○有効期限切れの農薬は使用せずに、産業廃棄物として処分する。

2 飛散防止対策の徹底

○風の弱い時に散布する。

○風向、散布方向、散布時間、散布圧などに留意する。

○飛散しにくい農薬（剤型）や飛散が少ないドリフト低減ノズルを使用する。

○散布ほ場周辺の収穫前の作物には十分注意する。

3 保護具の着用

○農薬の散布時には、ラベルの注意・警告マークをよく確認し、マスク、保護メガネ、ゴム手袋等を着用する。

4 農薬の散布後は、必ず散布器具を洗浄

○噴霧器、薬液タンク、ホースなどの散布器具を十分に洗浄する。

5 防除履歴の記帳

○農薬の散布が終わったら、作物名、ほ場の場所、使用年月日、薬剤名、使用濃度、使用量等を正確に記帳する。

6 空容器の処分

○空容器は、産業廃棄物処理業者に委託するなど、適切な処分を行う。

また、野焼きは法令で禁止されているので行わない。

福岡県病害虫防除所ではQRコードを作成しています。

携帯電話のQRコードリーダーでスキャンして頂くと、病害虫防除所ホームページに簡単にアクセスできますので、御利用下さい。

福岡県病害虫防除所



最新の病害虫発生状況